

環境共生資源学特論実験 (2単位)

担当者氏名 両角和夫

◆学習・教育目標

本特論実験では、環境と経済が両立する地域社会を形成することを目的に、持続的・地域資源利用とその社会的な実現をする上で不可欠な社会システムの利用・構築に関して、必要な社会科学的、自然科学的知識を身につける。そのため特定の農村現場を事例に取り上げ、そこでの社会問題の把握に必要な基礎的な調査と、地域資源を活用した環境修復・維持と経済振興のあり方、地域環境ビジネスの具体的なあり方を模索する。また、その場合、国内ばかりではなく、欧米等に見られる事例・データ等を渉猟・検討し必要な知見を得る。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

環境と経済の両立 地域資源 農村現場 欧米等
社会システム 社会問題 地域環境ビジネス

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	国内事例にみる地域の社会問題、地域資源の賦存状況把握等の実態把握(第1～5週)	・東北地域の農村を事例に、当面する社会問題の実態とその要因を社会科学・自然科学的の両面から分析把握する	わが国の農業、農村の現状を把握し、既存の研究成果資料を熟読しておくこと。
2	国内事例にみる地域環境ビジネスの取り組みと展望(第6～10週)	・東北地域の農村を事例に、地域資源を用いた地域環境ビジネスの取り組みの実態と、そこでの問題・課題と今後の可能性を展望する	特定の事例を対象に環境と経済が両立する地域社会の構築について検討するので、地域資源を用いた再生可能エネルギー・環境資材等の事業の取り組み事例などを自分で探しておくこと。
3	欧米等に見られる地域環境ビジネスの事例と今後の展望(第9～15週)	・欧米等に見られる地域環境ビジネスの取り組み実態と問題、課題を整理し、併せてそこでの政策的な対応状況や我が国への示唆を検討する	さらに、成果の発表としてのプレゼンテーションを実施する。

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

自然資本の経済／ポール・ボーケン、エイモリ・B・ロビンズ他/日本経済新聞社 (2001年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

コメのバイオ燃料化と地域振興／矢部光保/両角和夫編/筑波書房 (2010年)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

成果レポート (60点) とプレゼンテーション (40点) をもとに評価する。

◆その他受講上の注意事項

指定した、教科書、参考書を熟読しておくこと。